

岸田劉生

大正から昭和初期にかけて活躍した洋画家。東京・銀座生まれ。初め、ヨーロッパで当時流行していた印象派を日本に持ち込み、日本では外光派と呼ばれていた黒田清輝に師事した。その後、雑誌「白樺」を通じて、ゴッホやゴーギャン、セザンヌなどのポスト印象派に影響を受けたが、次第にルネサンスやバロックの巨匠・デューラーなどの西洋古典絵画の影響がみられるようになり、重厚な写実的作風に移行していく。やがて細密な描写による写実表現を確立した劉生は、東洋的な写実表現へと向かう道半ば、38歳で夭折。代表作に「道路と土手と塀（切通之写生）」や劉生の娘を描いた多くの「麗子像」がある。